

「ヘロデ王の死」

使徒 12 : 18~25

1. はじめに

- (1) アンテオケ教会の成長の記録が一段落し、12章で、物語はエルサレムに戻る。
 - ①ルカは、「イスラエルのメシア拒否」を再確認するためにこの箇所を書いている。
 - ②教会に対するユダヤ人たちの敵対が、第一次伝道旅行の舞台を整えていく。

- (2) 教会に対するユダヤ人たちの態度は悪化した。
 - ①異邦人が教会に加えられて以降、敵対心が増した。
 - ②そういう背景の中で、エルサレム教会に再度迫害が襲って来た。
 - ③ヘロデ王は、ユダヤ人たちの歓心を買うためにヤコブを殺した。
*ヘロデ大王の孫で、ヘロデ・アグリッパ1世である。
 - ④次に、ペテロを逮捕し、種なしパンの祭りの終わりに殺そうと計画した。
 - ⑤しかしペテロは、超自然的に牢から救出された。
 - ⑥ヘロデのその後がどうなったのかを見てみよう。
*種を蒔けば、その刈り取りをすることになる。

2. アウトライン

- (1) 番兵たちの処刑 (18~19 節)
- (2) ヘロデの死 (20~23 節)
- (3) 教会成長報告 (24~25 節)

結論 :

- (1) 小さな反キリスト
- (2) 使徒の働きの大きな流れの確認

蒔いた種の刈り取りについて学ぶ。

I. 番兵たちの処刑 (18~19 節)

1. 18 節

Act 12:18 さて、朝になると、ペテロはどうなったのかと、兵士たちの間に大騒ぎが起こった。

- (1) 朝になると、番兵の交代時間になる。
 - ①4人一組の兵士が4組任務に就いていた。

- ②彼らは、6時間交代でペテロの番をしていた。
- ③交代時間になり、ペテロがアントニア要塞の牢から消えていることに気づいた。

(2) 訳文の比較

- 「ペテロはどうなったのかと、兵士たちの間に大騒ぎが起こった」(新改訳)
- 「兵士たちの間で、ペテロはいったいどうなったのだろうと、大騒ぎになった」(新共同訳)
- 「兵卒たちの間に、ペテロはいったいどうなったのだろうと、大へんな騒ぎが起こった」(口語訳)
- 「ペテロは如何にせしとて兵卒の中(うち)の騒(さわぎ)一方ならず」(文語訳)
- 「there was no small stir among the soldiers, what was become of Peter.」(ASV)

(3) ルカは、筆致を抑えることで、逆に兵士たちの動揺の大きさを表現している。

- ①自分たちの命が懸かっているので、動揺するのは当然である。

2. 19節

Act 12:19 ヘロデは彼を捜したが見つけることができないので、番兵たちを取り調べ、彼らを処刑するように命じ、そして、ユダヤからカイザリヤに下って行って、そこに滞在した。

- (1) ヘロデは、ペテロの捜索に当たった。
 - ①大量の兵士たちを動員し、組織的に捜索を行ったことであろう。
 - ②城門を閉め、エルサレム中を探し回ったことであろう。
 - ③ペテロは、夜が明ける前に町から逃亡していた。
- (2) ヘロデは、番兵たちを取り調べた。
 - ①番兵たちの陰謀がなければ、ペテロが牢から消えることはあり得ない。
 - ②番兵たちを拷問にかけて、自白を強要した。
 - ③しかし、意味のある回答は得られなかった。
 - ④一番の被害者は、番兵たちである。
- (3) ヘロデは、彼らを処刑するように命じた。
 - ①これは、任務遂行に失敗した兵士に対する一般的な処置である。
 - ②ヘロデは、この出来事は神の業ではないと世間に公表しているのである。
 - *彼は、人間の命に対する敬意のかけらも持ち合わせていない。
 - ③番兵たちの処刑をどう考えたらよいのか。

- *これは、ヘロデの罪がもたらした副産物である。
- *これは、より大きな裁きを下る前の前奏曲である。

- (4) ヘロデは、カイザリヤに下って行った。
- ①カイザリヤには彼の王宮があった。
 - ②彼には、解決すべき隣国との外交問題があった。

II. ヘロデ王の死 (20～23 節)

1. 20 節

Act 12:20 さて、ヘロデはツロとシドンの人々に対して強い敵意を抱いていた。そこで彼らはみなでそろって彼をたずね、王の侍従ブラストに取り入って和解を求めた。その地方は王の国から食糧を得ていたからである。

- (1) ヘロデは、ツロとシドンに対して強い敵意を抱いていた。
- ①ツロとシドンは、イスラエルの北に位置するフェニキアの2大都市である。
 - ②怒りの原因は、分からない。
 - ③ヘロデは、ツロとシドンへの輸出を禁止していた。
*特に、食糧輸出が禁止されたのは痛手であった。
- (2) ツロとシドンの人々は、ヘロデとの確執が長期化することを恐れた。
- ①ヘロデは、ローマから絶大な権限を認められていた。
 - ②イスラエルからの穀物輸入がなければ、食糧不足に陥る。
 - ③恐らく、飢饉が始まる兆候が現れ始めていたのであろう。
- (3) 彼らは、ヘロデとの和解を求めた。
- ①彼らは、大規模な使節団をカイザリヤに送った。
 - ②王の侍従ブラストを味方に付けた。
*恐らく、賄賂を贈ったのであろう。

2. 21～22 節

Act 12:21 定められた日に、ヘロデは王服を着けて、王座に着き、彼らに向かって演説を始めた。

Act 12:22 そこで民衆は、「神の声だ。人間の声ではない」と叫び続けた。

- (1) 「定められた日」
- ①紀元44年の夏、名目は皇帝クラウデオを称えるためという祭りが開催された。

- ②ツロとシドンの市民たち、カイザリヤの市民たちが、円形劇場に集まった。
- ③祖父のヘロデ大王が建設した建物である。

(2) ヘロデは演説を始めた。

- ①彼は、王服を着けた。

*銀製の王服で、朝日に照らされて見事な輝きを放った(ヨセフス)。

- ②彼は、王座に着いた。

*円形劇場の中央に王座が設けられていた。

- ③彼は、出席していた人たちに向けて演説を始めた。

*今と違って、当時は着座した状態で演説するのが一般的であった。

(3) 聴衆の反応は驚くべきものであった。

- ①ヘロデのスピーチは、確かに力強いものであった。

- ②聴衆は、おべっかを使わざるを得ない状況にあった。

- ③彼らは、「神の声だ。人間の声ではない」と叫び続けた。

「私たちを憐れんでください。これまで私たちは、あなたを人としてのみ敬ってきましたが、これからは、人間以上のお方として崇めます」(ヨセフス)

- ④ヘロデは、この声を叱責することも、制止することもしなかった。

3. 23節

Act 12:23 **するとたちまち、主の使いがヘロデを打った。ヘロデが神に栄光を帰さなかったからである。彼は虫にかまれて息が絶えた。**

(1) 神は直ちに裁きを下された。

- ①「主の使い」とは、激痛のことである。

- ②その理由は、ヘロデが神に栄光を帰さなかったからである。

- ③イザ 42:8

Isa 42:8 わたしは【主】、これがわたしの名。／わたしの栄光を他の者に、／わたしの榮譽を刻んだ像どもに与えはしない。

(2) 「彼は虫にかまれて息が絶えた」

- ①これは、寄生虫(25センチ以上)によって腸壁が食いちぎられることである。

*古代世界では、この死因は珍しくなかった。

*最悪の死因と考えられていた。

- ②ヘロデは円形劇場から王宮に運ばれ、そこで5日間苦しんで死んだ(ヨセフス)。

*54歳で死んだ。

- ③ヘロデの死後、ペリクス、そして、フェストがユダヤ総督になった。
*それに続いて、ヘロデ・アグリッパ2世が王となった。

Ⅲ. 教会成長報告 (24～25 節)

1. 24 節

Act 12:24 主のみことばは、ますます盛んになり、広まって行った。

- (1) 使徒の働きの中に7つの教会成長記録がある。
- ①使 2 : 47、6 : 7、9 : 31、12 : 24、16 : 5、19 : 20、28 : 30～31
 - ②ここは、第4番目の成長記録である。
 - ③ヘロデの迫害によっても、教会は滅びなかった。
- (2) ヘロデの死後、再び伝道の手がやって来た。
- ①紀元44年～47年間までの3年間、教会成長に適した状況が訪れた。
 - ②と同時に、この時期に連続した飢饉が襲って来た。
 - ③エルサレム教会は、最悪の状態に陥っていた可能があった。
 - ④その時期に、アンテオケ教会からの義援金が届けられた。
*神の先回りの愛があった。

2. 25 節

Act 12:25 任務を果たしたバルナバとサウロは、マルコと呼ばれるヨハネを連れて、エルサレムから帰って来た。

- (1) 使 11 : 29～30 とつながっている。

Act 11:29 そこで、弟子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住んでいる兄弟たちに救援の物を送ることに決めた。

Act 11:30 彼らはそれを実行して、バルナバとサウロの手によって長老たちに送った。

- ①これは、紀元47年の秋であろう。
- (2) マルコがエルサレムからアンテオケに向った。
- ①第一次伝道旅行で彼が登場する。

結論 :

1. 小さな反キリスト

- (1) 1ヨハ2 : 18

1Jn 2:18 小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞き

ていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今が終わりの時であることがわかります。

- ①「終わりの時」とは、神の人類救済計画の最後の段階という意味である。
- ②将来現れる反キリストと、すでに存在している反キリストを区別する必要がある。
 - *反キリストとは、誤った教理を広めている人たちである。
 - *反キリストとは、神に栄光を帰さない人たちである。
- ③多くの反キリストの存在は、今が終わりの時であることを証明している。
- ④正しい教理に留まることができないのは、最初から救われていなかった証拠。

(2) ヘロデ・アグリッパは、小さな反キリストのような存在である(6つのステップ)。

- ①彼は、ヤコブを捕らえ、斬首した。
- ②彼は、ペテロを捕らえ、種なしパンの祭りの最後に殺そうとした。
- ③しかし神は、奇跡的にペテロを救出された。
- ④ヘロデは、この啓示に背を向け、神に栄光を帰すことを拒否した。
 - *自分の兵士たち16人の命を奪った。
- ⑤カイザリヤで神のように振る舞った。
 - *使10:25~26のペテロとは正反対である。

Act 10:25 ペテロが着くと、コルネリオは出迎えて、彼の足もとにひれ伏して拝んだ。

Act 10:26 するとペテロは彼を起こして、「お立ちなさい。私もひとりの人間です」と言った。

- ⑥彼は、最も悲惨な死に方をした。

2. 使徒の働きの大きな流れの確認

(1) 使1:8

Act 1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

- ①パート1 エルサレム
- ②パート2 ユダヤサ、マリヤ
- ③パート3 地の果て

(2) 使13章から世界宣教が始まる。

- ①今もそれが続いている。
- ②私たちが、その働きに加えていただく。